

子どもへの思いがこもった 先生たちの“プロの技”

～園児・児童・生徒が知らないこだわりストーリー～



保健室の先生
(養護教諭)



保育園・幼稚園の先生



小学校の先生

子どもケア学科の3専攻でめざせる

先生の“プロの技”を

3つのストーリーで紹介します。

- 子どもケア専攻 → 保健室の先生(養護教諭)
- 幼児保育専攻 → 保育園・幼稚園の先生
- 児童発達教育専攻 → 小学校の先生



保健室の先生(養護教諭)、保育園・幼稚園の先生、小学校の先生について、 みなさんはどんなイメージを持っていますか？

もしかしたら、こんなイメージ？

保健室の先生って、 普段は何をしているの？

保健室はケガや病気の子どもがいくところ。
だから、誰も来なければ保健室の先生って暇じゃないのかな？
毎日授業をやっている先生よりも忙しくない印象です。



もしかしたら、こんなイメージ？

保育園・幼稚園の先生は 子どもと遊ぶことが仕事？

子どものことが大好きで、毎日一緒に遊んでくれる先生。
いろんな遊びを知っていてみんなを楽しませてくれるけれど、
先生自身はどんなことを考えているんだろう？



もしかしたら、こんなイメージ？

教科書に沿って勉強を 教えるのが小学校の先生？

国語、算数、理科、社会…それぞれの教科書を使って
授業を進めていくのが小学校の先生。
でも、クラスにはいろんな児童がいるから大変そう。



こうしたイメージは、みなさんが子どもだった頃に出会った先生たちの印象でつくられているでしょう。
でも、実は先生たちの仕事には、子どもへの想いがこもった“プロの技”が隠れています。
そんな“プロの技”を、ある3人の先生を主役にしたストーリーで紹介します。

※大学教員・在学生・卒業生の話を基に、架空の先生を想定しています。働き方や考え方がすべての先生にあてはまるわけではありません。

保健室の先生(養護教諭)のストーリー

あえて暇そうに見せる

「お、しっかり石鹸で手洗いできてるね！」

「だって風邪ひいたらいっぱい遊べなくなるもん！」

よし、ちゃんと保健委員会と企画した手洗い運動が根づいてきたな。¹

私はよく、こうして廊下を歩きながら子どもたちの様子を観察している。

「先生! もう腕のケガ、良くなったよ!」²

そんな声を聞くこともしばしば。

元氣な姿を見ると、ケガが起きた原因もイメージできたりする。

教室を覗き、先日腹痛で保健室を訪れた子どもの姿を見つける。

もしかしたら友達と上手くいってないのかもしれないな。

今度はもっと雑談をしながら本音を引き出してみよう。³

保健室でのケガや病気への対応はもちろん、

クラス担任の先生との相談や会議、

学内の衛生管理、病院や学校医との連携、保護者への連絡…

実際には幅広い職務を担っているけれど、⁴

私があえてこうして校内を巡回していることには重要な意味がある。

「あれ? 保健室の先生、またフラフラしてる～」

「ハハハ、たまには保健室に遊びに来てね～」

子どもたちからは暇そうな先生だと思われているけれど、

あえて暇そうに見せているのだ。

私が忙しそうにしていたら、子どもたちは近づきづらくなってしまうから。

クラス担任と違って、保健室の先生は学校にひとり。

全校児童が私の担当だ。みんなにとって安心できる存在でありたい。



保健室の先生(養護教諭)をめざす 子どもケア専攻 の学びをPick Up!

※ストーリー内の番号に対応しています。

1 保健教育の技術を磨く「学校保健演習」

風邪の予防、虫歯の予防、生活習慣の改善などをテーマに、掲示物などを用いながら演習形式で指導技術を磨きます。保健委員会の運営についても計画立案から運営まで幅広く学びます。

2 ケガや病気の対応について学ぶ「救急処置」

打撲、擦り傷、腹痛、発熱など、学校現場で発生する機会の多いケガや病気の対応について実践的に学びます。学校内で唯一看護や医療の専門知識を持った教諭として働くうえで、適切な判断力や行動力を養います。



3 保健室来訪者の対応を実践する「健康相談の理論と方法」

保健室を訪れる児童・生徒の身体的不調の背景にも目を向け、それぞれが抱える課題に気づき、解決するための知識やスキルを身につけます。ロールプレイ形式でさまざまなケースを学びます。

4 養護教諭の使命や役割を知る「養護概論Ⅰ・Ⅱ」

歴史的背景や法的な規定も踏まえ、さまざまな観点から養護教諭の使命・役割や職務内容について理解を深めます。感染症予防やアレルギー対応といった現代的な健康課題についても学びます。



きっかけを散りばめる

「やだ！車じゃなくてお城つくろうよ！」

さりげなく配置しておいた積み木に二人の子どもが興味を持ち、¹ちょっとした言い争いになっている。でも、私はあえてそれを見守る。ここで仲裁に入ると、自分たちで解決する機会を奪ってしまうからだ。「積み木はもっといっぱいあるよ！」少しだけヒントを与えてみると「あ、じゃあ大きいお城にして車も一緒に走らせよう！」
「うん、そうしよう！」無事解決したようだ。

「つかまえた！先生がまたオニだよ！」

オニごっここのときは成長の早い子も遅い子も楽しく遊べるようにさりげなく私がオニになり、いつも違う子を追いかける。
ルールに慣れてきた子たちには、もう少し新しい遊び方も。²
「これから先生がつかまえた子はみんなオニになるから、どんどんオニが増えていくよ〜！」

「うちの子歩くのが本当に遅くて…園でも迷惑かけてないですか？」

お迎えの時間、相談してきたお母さんにも大事な気づきを。³
「遅いじゃなくて、お花とかいろんなものに興味が広がってるんです。時間があるときは、一緒に目線の先にも注目してあげてください！」

乳幼児期は点数に表れる学力よりも、

この先の人生の土台となるような自信や好奇心、

協調性や思いやりの気持ちを育むことが重要だ。⁴

一見、毎日一緒に遊んでいるだけに見えるかもしれないけれど、そのためのきっかけを保育環境の中にたくさん散りばめている。

日々の小さなきっかけの積み重ねが、
大きな成長の支えとなるように。



保育園・幼稚園の先生をめざす **幼児保育専攻** の学びを Pick Up! ※ストーリー内の番号に対応しています。

1 周囲の環境から保育を考える「子どもと環境」

幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力などを踏まえ、自然、文化、地域、情報など、周囲の環境と子どもの関係について理解を深めます。また、それらを具体的な保育場面に展開していく力を養います。



2 学生主体でつくりあげるイベント“遊びの交流会”

年に2回開催している、地域の親子を招いた大規模イベントです。学生が主体となり、学年の枠を超えて協力しながら、子どもたちを楽しませる遊びやプログラムを考え、準備し、当日の運営まで行います。



3 親子とのかかわりを実践する「託児ボランティア」

地域の親子が訪れる学内施設「子どもケアセンター」を活用し、「託児ボランティア」として子どもはもちろん、保護者への対応も実践的に学びます。親子を招いた交流イベントも定期的を実施しています。

4 子どもそのものの理解を深める「幼児理解」

保育の原点でもある「子どもの理解」を専門的に深めるため、幼児期の各年齢の特性や発達にさまざまな角度からアプローチします。また具体的な事例を通して、理解に基づいた援助についても学びます。

小学校の先生のストーリー

「わかる」のための遠回り

9歳の壁、という言葉がある。^①

小学校4年生前後の児童が学習内容についていけず、友だちや家族との関係などがうまくいかなくなってしまう現象だ。

ある児童にもその兆候があった。算数の分数がうまく理解できず、授業中も私語やよそ見が多くなっていったのだ。

こういうとき、彼のためにどうするか、と考えてしまいがちだが、実際はもう少し視野を広げる必要がある。

なぜならば、あるひとりが理解できていないポイントでは、他にも多くの児童がつまづいている可能性があるからだ。

そこで授業スタイルを工夫して、もう一度基本から教えることにした。^②

いつものように教壇からではなく、教室の真ん中に立ち、リンゴを配りながら分数の考え方を説明したのだ。

「12個のリンゴの1/3はいくつになるかな？ 3人で分けてみよう。

…1、2、3、4個だね。今度はその1/2についても考えてみようか」

リンゴを数える彼の表情が徐々に明るくなり、笑顔も見せた。

そして気づけば、クラス中が活気に満ちていた。

興味を惹き、視覚的にわかりやすく、一步一步時間をかけて。^③

ある児童にとっての「わかる」を追求することで、

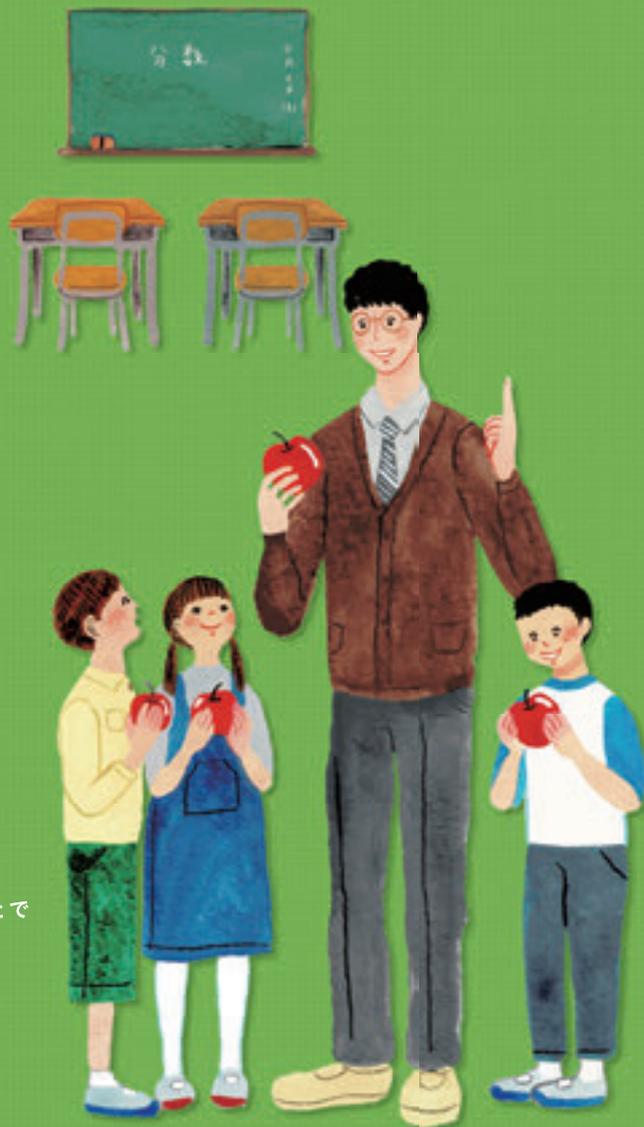
結果的に誰にとっても「わかりやすい」に辿り着くことができる。^④

一見遠回りに見えるかもしれないが、ひとりのつまづきに丁寧に向き合うことでクラス全体の理解度を高めることができるのだ。

教科書に沿って「教える」ことは大前提だ。

でもその先には「わかる」がないと意味がない。

ひとりとみんな、それぞれの視点から「わかる」を一緒に探していきたい。



小学校の先生をめざす **児童発達教育専攻** の学びを Pick Up!

※ストーリー内の番号に対応しています。

① 人の発達過程を段階的に学ぶ「生涯発達心理学Ⅰ」

受胎から死に至るまでの生涯にわたる人の発達過程を段階的に学んでいきます。児童期の学校生活における諸課題への対応についても考察し、人を多面的にとらえられる力を養います。



② 時代に即した教育力を養う「初等(各教科)教育法」

国が定める学習指導要領の役割や変遷を理解し、これからの時代の小学校教諭に求められる教科教育の力を養います。模擬授業を重視し、実践を通して指導法を学んでいきます。



③ 人のこころの動きを科学的に理解する「認知心理学」

人が外界からの刺激や情報に触れるとき、こころはどんな動きをし、認知、感情、記憶などにどう影響するのかを科学的に理解します。学習面だけでなく、日常のあらゆるシーンに応用できる学びです。

④ 「わかる」を根本から考える「特別支援教育論」

障がいなどにより学習や生活に困難を抱える児童・生徒への教育の方法や理論を理解し、その先にある授業のユニバーサルデザイン(=誰にでもわかりやすい授業づくり)を考察していきます。